

『赤目四十八滝』紀行

5班 五味久美

穏やかに晴れた晩秋の一日、まさに、しおりにあった“たくさんの人とふれあい、大自然ともふれあい、一緒にすばらしいハイキングイベント”となりました。

9:35 上本町駅出発、総勢八十七名の参加でした。10:45 赤目口駅到着、10:55 バス出発、11:05 バス到着の予定が・・・さすが、紅葉シーズン真っ只中の休日、すごい車の渋滞が・・・何と12時をとっくに過ぎているではありませんか！！ とにかく、ものすごい人の波の中で急遽、予定を変え、ここ、赤目四十八滝入り口小公園に16:00に集合することを確約して、行動開始にしたのでした。日本オオサンショウウオセンター(赤目生まれのオオサンショウウオをはじめ国内産、海外産あわせて約60余匹が飼育されている)より滝へ出発です。赤目四十八滝・・・約1500万年前の火山活動によって出来た山々が連なる室生火山群の中央部には、青蓮寺川の渓谷・香落溪(こおちだに)・奥香落溪・滝川の最上流部に赤目四十八滝などの景勝地があり、安山岩の柱状節理がみごとな深い峡谷に、大小多数の滝が連続して約4km続く。・・・見たい！！知りたい！！私の胸は高鳴る。若き学習者の方々にパワーをもらいながら、凜とした空気と溪流の響きの中を一步一步進む私でした。さすが“山岳宗教の聖地”の名どおり、滝の名前には、修験者の修行したという<行者滝>、不動明王にちなんで名づけられた<不動滝>、役の小角(えんのおづぬ)が滝に向かって行を修めていると、不動明王が赤い目の牛に乗って出現したという伝説から来る<赤目牛>等、仏名に因んだものが続く。不動滝をこえると流れはゆるやかに・

滝も涸も小さくなって、やさしい流れは乙女そのもの、清純な乙女のような滝で、昼食タイムとなりました。切り立った岩壁を鮮やかに彩る紅葉をみながら、それぞれにゆったりと、美味しく、たのしみました。私は再度、百畳岩の上に立ちたくリーダーにお願いして当初、昼食



地点としていた百畳岩まで行く事にしました。壘八畳ほどあることから名づけられた八畳岩を経て、いよいよ<千手滝>と<布曳滝>に着く。高さ30mから一条の布をかけたように落ちる滝は美しい！滝壺の深さも30mもあるとか。水の力の凄さよ！次に、昔このあたりは鬼でも通ることができないほど険しく、藤の古木にすがって渡ったという緋藤滝を経て、左側の溪流を見下ろしますと、水中の大きな石と小さな石の間には、まさしく、オオサンショウウオです！！尻尾が岩の下に潜って行って、ほんの僅かな時間でしたが感動しました。<陰陽滝>を経てやっと、茶屋が目に入ってきた。茶店の前からゆるやかな傾斜をえがいて、一枚岩の大きな岩盤が広がっている。百畳敷ほどもある岩。ここからの眺めは雄大で最高でした。百畳岩は1830m地点、全長4270mの散策路には、まだまだ大岩、滝、滝壺があり、興味は尽きません。

みんなで、ゆっくり下山し、再び16:00に、四十八滝入り口小公園に全員無事、集合し、帰路に着くことができました。